

都市再生整備計画

もとやま ち く
本山地区

こうち もとやまちょう
高知県 本山町

平成24年3月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	高知県	市町村名	もとやままち 本山町	地区名	もとやままち 本山地区	面積	2500 ha
計画期間	平成	24	年度	～	平成	28	年度
交付期間	平成	24	年度	～	平成	28	年度

目標

安全で住みよく活気ある豊かなまちづくり

- 目標1 住民が安全で快適な生活を営め、豊かなまちづくりに繋がる施設整備を進める
- 目標2 交流人口の増加を図り、定住人口増加につなげ地域の活性化を図る

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

本町は明治43年に町制施行し、平成22年で100周年を迎えた。この間、昭和30年には旧本山町と吉野村が合併、その後、昭和36年4月に吉野村西部5地区が分離して土佐町に編入され現在に至っている。四国のほぼ中央に位置している本町は嶺北地域の政治・経済・文化の中心をなしてきた。豊かな自然資源に囲まれた本町では、農林業を基幹産業に生活が営まれてきたが、近年過疎高齢化が押し寄せ、特に若年層の人口の減少が見られる。しかし、それを押し返すように本山町ブランド化推進協議会の米ブランド化事業による日本一の米「天空の郷」や、間伐材を利用した木工品の開発に取り組み合同会社「ばうむ」の設立、地域おこし協力隊の活躍など新しい波が次々と生まれ、豊かな自然資源を生かした交流人口の拡大や豊富な農産物・森林資源を生かした産業興し、など活気ある町へと変わってきている。

平成2年には文化の拠点施設である本山町プラチナセンターを建設し、各種文化事業を実施し、町内外の教育振興に大きく寄与してきた。平成22年度には本山町文化協会を中心に日舞・演奏会・作品展示会・有名歌手コンサート・演劇・映画上映などを実施している。あわせて、平成3年には本町出身の名誉町民である大原富枝先生の文学館設立と同時に、茶室を建設し、お茶による文化の振興を図ってきた。また、平成8年には産業振興センターを建設し地域食材を町外にアピールすることで交流人口の増加を図ってきた。産業振興センター交流広場では、毎週一回の市場開催のほか、夏時期を中心に地域子供会の交流会が開催されているが、交流広場の利便性に問題があるため、交流人口の減少が見られる。

また、本町は、学校等の公共施設が耐震化されていないことや、中心市街地から離れた地域では、災害時に孤立する恐れがあり、近い将来に起きるとされている東南海、南海地震に備えるため、計画的に耐震工事及び、災害時の情報伝達手段を確保する必要がある。

課題

- ・交流の拠点施設において、現状の交流広場では道路より直接乗り入れが不可能なため利便性に問題があり、交流イベントの開催・施設利用客の減少がある。
- ・安心して住みよいまちづくりのためには情報伝達手段が不可欠であるが、一部地域でブロードバンド網が設置出来ていない住宅が有り、情報伝達が不十分である。また、緊急避難施設である体育館が老朽化のため、十分な機能を果たしていない。
- ・大原富枝文学館に併設した文化交流施設が老朽化し、その機能を果たしていない。

将来ビジョン(中長期)

平成22年3月に策定された本山町振興計画(第6次)に沿ったまちづくり

「くらしと自然の調和のとれた花と歴史の町」を大切に「若者が住みたい魅力あるまちづくり」を目指す。①安全で住みよいまちづくり②豊かなまちづくり③明るく希望のあるまちづくり④快適なまちづくりを進め、「一人ひとりが喜びや幸せを実感し、心豊かで希望のもてるまちづくり」「地域が安心して活力ある、暮らしやすいふるさと共生社会」の実現を図ることを目的とする。

目標を定量化する指標

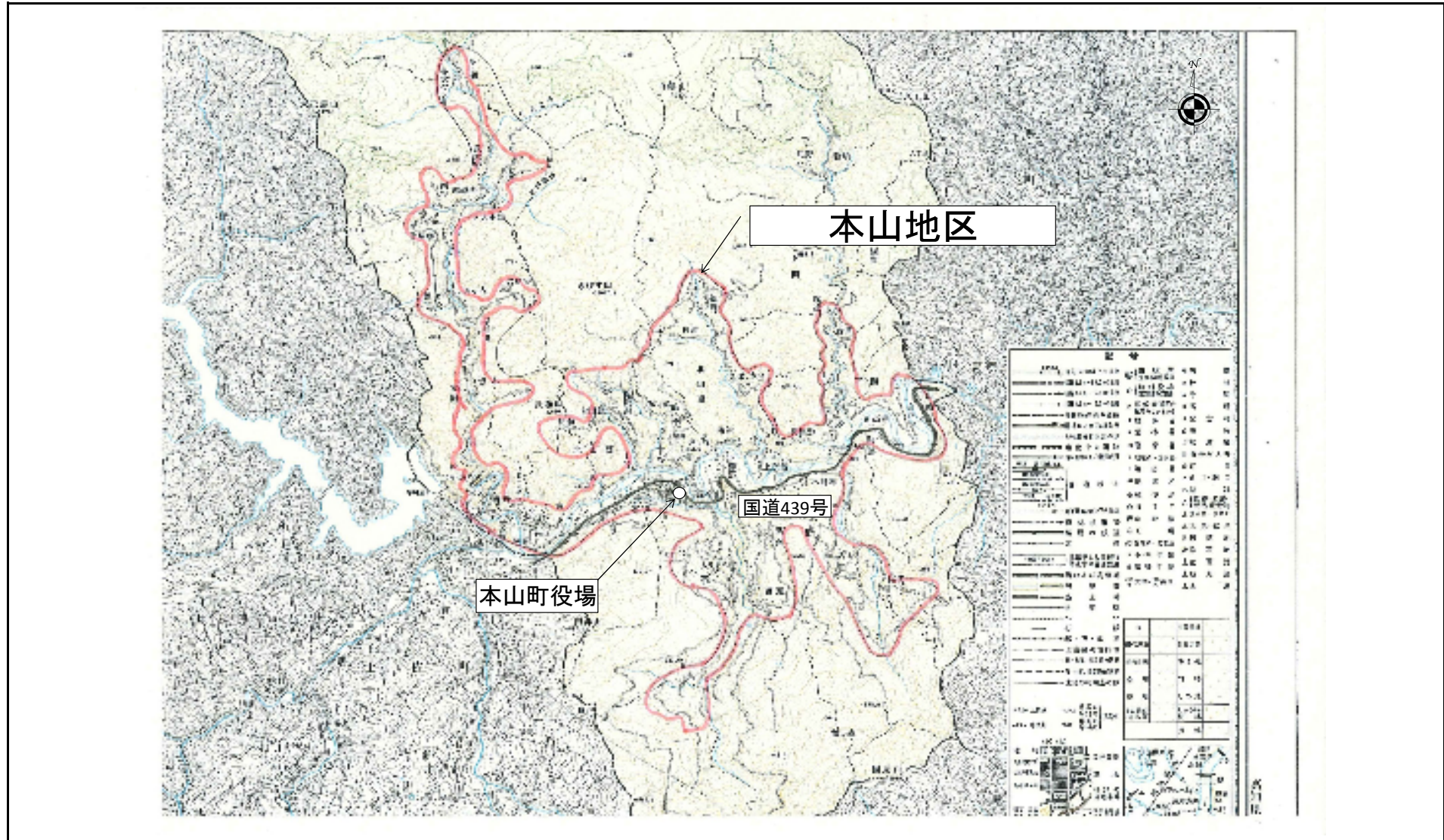
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	目標年度
産業振興センター来訪者	人	産業振興センターに訪れる人数	21748	平成22年度	22500	平成26年度
防災訓練参加者数	人	自主防災組織が開催する防災訓練に参加する人数	120	平成22年度	500	平成26年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1 安全で快適な生活の確保と豊かなまちづくり 老朽化した婦全の森体育館(旧本山中学校)を整備することで災害時の安全確保を図る。 近年、過疎高齢化(高齢化率 平成24年1月1日 40.7%)が進むなか、地域情報通信施設を整備することにより、災害時の情報伝達手段を確保するとともに、日常は役場からのお知らせ放送や地域コミュニティー放送等を情報伝達網を利用して誰もが安心して安全に暮らせる地域づくりの推進を図る。</p>	<p>婦全の森体育館(旧本山中学校)改修事業(基幹事業) 地域情報通信施設整備事業(提案事業)</p>
<p>・整備方針2 交流・定住人口の増加による地域活性化 産業振興センターの交流広場を整備することで、隣接する本山さくら市との相乗効果により交流人口の拡大を図る。 文化交流施設を整備することで文化の振興に寄与する。</p>	<p>産業振興センター(四季菜館)交流広場改修事業(基幹事業) 文化交流施設整備事業(提案事業)</p>
<p>・</p>	
<p>その他</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成21・22年度に地域情報基盤整備事業で町内全域にブロードバンド網が設置され行政放送やコミュニティー放送の実施が可能になったことにより、災害時の情報収集や伝達手段が確立されつつある。 ○ 平成24年度に大石地区にクラインガルテン(滞在型市民農園)10棟を建設し、交流人口の増加やあわせて定住促進に努める。 ○ 本町の持つ豊かな地域資源である汗見川地域や大石・吉延の棚田の景観で、平成23年10月に日本で最も美しい村連合に加入したことにより、景観に対する町民の意識を高め地域資源をあらためて考えることでまちづくりを進め、交流・定住人口の増加を図る。 ○ 本山地方簡易裁判所の施設を利用して平成3年に大原富枝文学館が設置され文学の拠点施設となった。 	

都市再生整備計画の区域

本山地区(高知県本山町)	面積 2,500 ha	区域 本山・大石・吉延・三寄・木能津・古田・助藤・山崎・下関・上関・北山東・北山西・寺家・吉野・立野・坂本・屋所・沢ヶ内 瓜生野・七戸
--------------	----------------	---



本山地区地区(高知県本山町) 整備方針概要図

目標	安全で住みよく活気あるまちづくり	代表的な指標	産業振興センター来客数 人/年	21748	(22年度) →	22000	(26年度)
			防災訓練開催数 人/年	120	(22年度) →	140	(26年度)
			文化交流会 人/年	1120	(22年度) →	1500	(26年度)

